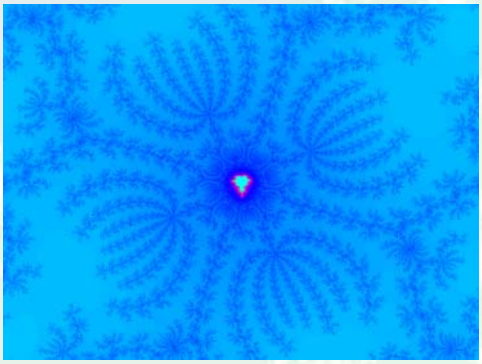
福島高専図書館報　No.108

ビブリア



ビブリア

発行日
2010年10月21日

目次:

巻頭言　図書館長　2
I-TOSS　サービス開始です　3
福島高専図書館レポート　5
私が薦める本のコーナー　6
図書館Live　15
市立図書館の本を借りるには　16
読書マラソン　17
etc/etc/etc　18
初めまして　19
カレンダー　編集後記　20

図書館・図書に想う

図書館長　伊藤正義

今年度から図書館を担当することになりました。よろしくお願いいたします。原稿を依頼されたのを機会に、私の図書館／読書に対する想いを申し述べてみることにいたします。

（１）図書館の施設・設備

建物は昭和４５年（１９７０）に竣工されてから約４０年になります。老朽化している部分もありますが、これまでの先人達の努力で、設備の改修、改善がなされ現在に至っております。貯蔵図書は８万冊に及び、毎年約１２００冊の図書が新しく購入されております。パソコン、ＤＶＤ、ビデオなどが導入され、使い良い図書館に少しずつ進化してきております。

（２）図書館の利用

この７月から“Ｉ－ＴＯＳＳ”がスタートしました。いわき市内にある４つの図書館（いわき市立図書館、いわき明星大学図書館、東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館、本校図書館）が皆さんの生涯学習、教育・研究活動の推進のために結成したネットワークです。本校の学生は上記の３つの学外の図書館にある本（本校で検索が可能）を自由に借りることができ、希望図書の運搬もいわき市立図書館の巡回車がやってくれますので、すべて学内にて入手と返却が可能となります。この制度は利用できる図書を大幅に拡大してくれる画期的なものです。まだご存じのない学生、利用したことのない学生も多いことかと思いますが、是非、気軽に活用してください。

“読書マラソン”が始まりました。これは各自の読んだ本に応じてポイントが与えられるものです。どのような利点があるかなど、詳しくは図書の窓口にお尋ねください

“ブックハンティング”は今年も実施されます。学生自らが本屋さんに行って、読みたい本を自由に選べるシステムです。新しい本を真っ先に手にして読めます。積極的に参加してください。

“ビブリア”は本校図書館の機関紙です。年に２回発行されます。耳寄りな情報が掲載されておりますので、必ず一度は目を通してみてください。また図書館の入り口には大きな掲示版が設置され、イベント情報、図書の案内などが提供されるようになりました。

（３）読書のすすめ

種々雑多な実用書(?)、情報誌しか読まなくなってから長い私ですが、最後に１５～２０歳頃に読んだ印象に深い本を紹介します。

“デミアン”、ドイツの詩人、ヘルマンヘッセの小説です。最初に読んだ彼の作品で、それからヘッセには興味を持ち訳本、解説書の蒐集（しゅうしゅう）を始めました。春の嵐、知と愛、車輪の下、内面への道、詩集類、等々です。日本ヘッセ研究会なるものがあって参加もしてました。原本を読もうと思いつつもそれは実現されていません。その後、化学を始めてから４０年近くになりますが、一度たりとも読み直したことはありません。引越しは何度もしましたが、それらはいつも書棚の一番いい場所に収まっています。私の中ではすでに風化してしまい、思い出だけなのかもしれません。しかし、とにかく本だけは捨てることができずに大切にとっています。

電子図書の時代が始まっています。しかし、じっくりと周囲の自然環境を感じながら本を手にして読むというのもいいと思います。皆さんは忙しい学生生活でしょうが、休みのときなどには時間をつくって、自分の青春の一冊を見つけてください。

物質工学科

Let’s I-TOSS　　サービス開始です!!

「いわき市立図書館」、「いわき明星大学図書館」、「東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館」及び「福島工業高等専門学校図書館」の４館が地域住民の生涯学習、教育・研究活動の推進を図るため、相互協力体制をとりました。 各館の蔵書を相互利用する画期的なサービスの運用が開始されました。いわき市立図書館の蔵書（図書）を、上記大学、高専の３図書館の窓口で借り出しと返却ができるようになりました。（図書館の利用者登録を省くことができます。）

I-TOSSのメリット　加盟館の蔵書総数は、120万冊を越え、加盟館の蔵書を本校図書館の蔵書（仮想的な書庫）として取り扱えるところ。

I-TOSSのサービスを受けられる人

・高専の学生と教職員（図書館利用証がある市民）
　いわき市立図書館、いわき明星大学、東日本国際大学の蔵書を利用できるようになりました。

・いわき市立図書館の図書カードがあれば
　　Webで予約した本を高専の図書館で受け取ることができます。
　　市立図書館で借りた本の返却を高専図書館で行うことができます。

このサービスは無料で利用できます。くわしい説明が必要な方は、本校図書館、いわき市立図書館など加盟館担当まで、お問い合わせください。

みなさまのご来館とご利用をお待ちしております。

福島高専、いわき明星大学、東日本国際大学の地域の高等教育機関は、いわき市と連携協定を締結しています。この協定を図書館のサービスに反映させより連携を強めようとしたものです。いわき市立図書館（6館）を巡回している図書館連絡車が高専と大学を巡回するという方法で、I-TOSSのサービスが実現しました。

高専の図書館に蔵書として「ない本」が、いわき明星大学や東日本国際大学の蔵書としてあれば、図書係に利用を申し込むと、最速3日で手許に届くのです。これまでも相互貸借として利用できましたが、片道分の送料の負担が発生すること、利用期間も短めなどの制限がありました。しかし、I-TOSSなら、無料で1ヶ月間、他館の蔵書を借り出すことができます。

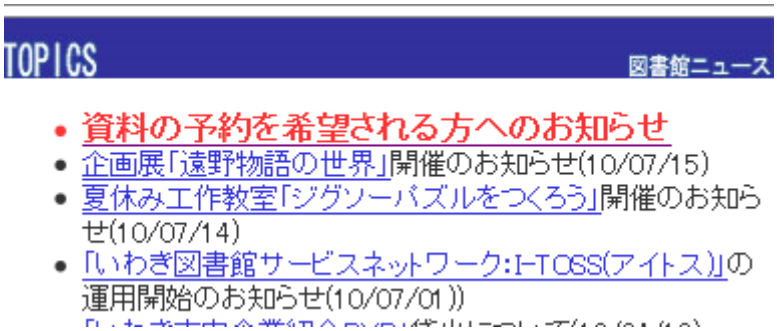
図書館を利用する場合は、その図書館の利用証が必要ですが、I-TOSS加盟館の蔵書を利用する場合は、所属館の利用証があれば蔵書の利用が受けられるようになりました。

今日、自治体図書館と大学や高専の図書館の連携協定は珍しくなくなりましたが、I-TOSS加盟館、市立図書館、大学、高専と4者の連携協定はユニークなサービスといえます。上手に利用して大きく育てていきたいものです。

I-TOSSとは

Ｉ いわき市のI、利用者の私を表すI　です。

TOSS　　図書館サービスシステム　のイニシャル　バレーボールのトスにも通じて、利用者を結ぶ
　利用者とサービス、情報の交換を表しています。



いわき市立図書館HP

いわき市立図書館と大学・高専図書館との連携事業
「いわき図書館サービスネットワーク：I-TOSS(アイトス)」の運用開始について

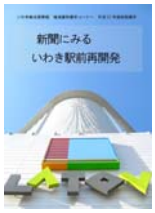
いわき市立図書館」、「いわき明星大学図書館」、「東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館」及び「福島工業高等専門学校図書館」の４図書館が地域住民の生涯学習、教育・研究活動の推進を図るため、相互協力体制を取ることを協定書で述べています。

○運用開始日　　平成22年7月１日（木）
○事業内容
①図書館サービスの相互利用
・市立図書館巡回車が加盟図書館を巡回し、相互に資料の配送を行う。
・大学・高専図書館を、市立図書館利用者の予約図書の受け渡し返却の窓口とする。
・加盟図書館は、保有する資料等を参照し、相互に調査相談業務の連携を行う。
②図書館資料の相互利用
・加盟図書館間のネットワークを構築することにより、図書館資料の相互貸借の推進を図る。
③職員の相互研修
・加盟図書館職員が互いに職場の業務を経験する機会を設けるとともに、必要に応じて合同の研修を行うことにより、職員相互の理解を深め、図書館サービスの向上に努める。

I-TOSSのメリット
４館の連携による図書館サービスの充実と向上が期待できます

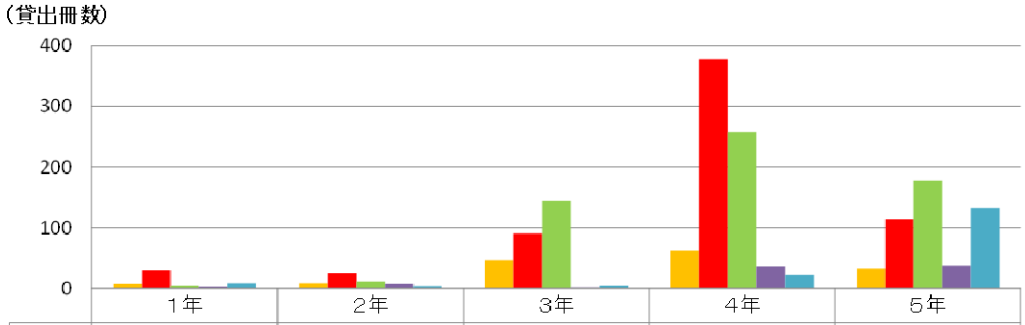
図書館利用者へのメリット
☑どこでもいつでも必要な本（情報）を提供できるシステムに近づきます

図書館のメリット
☑　各館の専門性を高める方向に集中して連携することで相互の有効性が高まります。
☑　図書館間での情報共有、共同研修による図書館力の向上が期待できます



図書館レポート

福島高専図書館の利用状況について



	1年	2年	3年	4年	5年
機械	8	9	46	63	33
電気	30	25	91	378	115
物質	5	12	144	258	178
建設	3	8	2	37	38
コミ情	9	4	5	22	133

2010年上半期学年・学科ごとの貸出冊数
（集計期間：2010年4月1日～7月22日）

赤の電気が全学年で、緑の物質は3年以上、建設は4年、コミは5年と学科別で見えます。４Eの利用状況は1人平均10冊弱を3ヶ月間で利用しています。

どのクラスの学生にとっても有効な場所、施設でありたいと考えていますので、必要な“本“は、リクエストでお知らせ下さい。

貸出回数の上位は「レポート」関係本が占めていますが、“告白”がリストに入っているのが、2010年上期のランキングの特長となりました。

表-1　利用回数の多かった図書（上位5冊）

順位	貸出回数	書名,巻次,叢書名	著 者
1 位	9 回	光センサとその使い方 種類・特徴・回路技術	谷腰欣司
2 位	8 回	実験有機合成化学	右田俊彦 編
2 位	8 回	実験有機化学	梅沢純夫
4 位	7 回	TOEICテストにでる順　英単語 これだけ覚えれば860点突破	河上源一 編
5 位	6 回	超電導入門	A.C.ローズーインネス
5 位	6 回	わかりやすいブリッジ回路 電子科学シリーズ	原 宏
5 位	6 回	無機化学実験書 改稿版	無機化学研究会 編
5 位	6 回	告白	湊かなえ
5 位	6 回	電子回路 アナログ編	尾崎弘 ほか
5 位	6 回	電気機器 2 電気・電子・情報基礎シリーズ 7	中田高義
5 位	6 回	電気機器 2 電気・電子・情報基礎シリーズ 7	中田高義

私が薦める本のコーナー

金の天気予報　銀の天気予報

一般教科（物理）　磯上　慎二先生

「福島高専のグラウンド」で降っている雨は「何時」にやむのか，と思ったことがある運動部員はどれくらいいるでしょうか.

現在では，携帯やPCなどの天気予報から簡単にそれらの事が分かるようになってきました．しかしこれは最近のことで，１０年以上も前では晴れる時刻までは予報できず，場所も浜通り，中通り，会津地方のように広領域を漠然とカバーするだけのものでした．それらを踏まえて著者は前者を「金の天気予報」，後者を「銀の天気予報」と表現しています.

ではなぜ「銀」から「金」へ格上げされ得たのでしょう．答えの１つは当然，数値計算用コンピュータの高性能化のため，空間と時間の両方をきめ細かく，かつ高速に計算できるようになった点があります．しかし著者はそれを超える大切なことがあるといいます．それは陳腐で無味乾燥なコンピュータの計算結果に，如何に美しく色や香りづけを施し，時には熨斗紙付きで包装まで行えるか，つまり如何に情報の受け手が望む付加価値を提供できるか，という点です．情報の送り手と受け手が相互マッチングして初めて，本当の「金の天気予報」になるというわけです.

今でこそ「金の天気予報」は当り前と思う人もいるでしょうが，ルーツは民間気象会社にあり，生まれ変わりの過程は決して用意されたレールを渡るような簡単な道ではありませんでした．気象庁との闘い，新たな事業への挑戦など民間企業現場ならではの生き生きしたドラマが平易な文章で書かれています．私はこの本を読みながら，気象情報の付加価値創造と高専特有のものづくりに対する取り組みとメンタリティは，「ユーザーが望んでいて本当に役立つ物を創る」点においてよく似ているなと感じました.

蛇足ですが，著者の気象会社創立のきっかけは，1970年に爆弾低気圧による「小名浜」での貿易船海難事故で仲間の尊い人命が奪われたこと，だったそうです.

ISBN-13: 978-4876017645

「技術に生きる現代数学」

一般教科（数学）馬場　蔵人先生

日本は科学技術の進歩によって発展をしてきました。また、さらなる日本の発展にも、科学技術の発展はますます重要になってきます。福島高専の学生のみなさんは、その実践的技術者として活躍できるよう、日々の勉強に勤しんでいると思います。私は数学の教員として、学生のみなさんに、数学が現在の科学技術にどう生かされているかを知ってもらいたく、この本をすすめます。数学が現在の科学技術に生かされているかは明らかなことですが、それがどのようなものかを説明するのは大変難しいことです。また、その説明を理解するにも、ある程度の数学的な素養が必要になってきます。

この本で取り扱っている内容は、情報セキュリティー、医療技術、金融、航空機開発、DNA構造など多岐にわたる分野です。それぞれの分野で数学がどう使われているかが平明に説明されています。また、この本は微分積分および線形代数、確率統計の知識が前提として書かれており、少し上学年向けの本になっています。しかし、低学年の学生にも自分の興味あるところの分野で、数学がどう使われているかを感じ取って欲しいと思います。内容の詳細は今はまだ難しいと思いますが、先を見通すことは、これから勉強していく中で大事になってくるはずです。この本では、各分野を説明した最後に、参考文献がのせてあり、さらに勉強したい人のためにとても便利な構成になっています。

昔にくらべ、ものづくりの技術者は数学への関心が低下しているという話を聞きます。この本を通して数学に関心をもった技術者が育ってくれることを期待しています。

ISBN-13: 978-4000052412

「善の研究」　西田幾多郎　著

一般教科（英語）　宮澤　泰彦先生

ふつう人に紹介するからには、内容を十分咀嚼（そしゃく）できた上でその理解に自信の持てる本にすべきなのでしょうが、敢えてこの本を挙げさせて下さい。高校生の時に背伸びして手を伸ばして以来、何度か本気でわかりたいと思って格闘してはみるものの、結局いまだにちゃんとわかった気がしないままの本です。もちろんそのたびに間違いなく通読は重ねているはずなのですが。

わからぬ理由には心当たりがたくさんあって、文中ひんぱんに登場する西欧哲学者の名を知らない、諸説を存じあげない、そもそも東西問わず哲学史も知らない、といったありさまなのです。人類叡智のエッセンスになんとかかじりつきたいというあこがれは心のどこかにくすぶりつつも、本腰を入れて基礎から学ぶ気迫と根気に欠けているのでしょう。生半可な勉強では鎧袖一触（がいしゅういっしょく）と片付けられてしまうこと請け合い。近代日本初の独自哲学との誉れ高い名著。学問の厳しさを教えてくれる本と言ってもいいかもしれません。

しかし一方で、難しい数式が出てくるわけじゃなし、今どきのことばとかけ離れた別の言語で書かれているわけでなし、なにくそ日本人の端くれなら著者の論旨を追っかけることくらいできなくてどうするっ、と奮起を促してくれる本でもあります。

著者は「純粋経験」こそ唯一の実在であるとして物心二元論を退けるとともに、唯物論にも唯心論にも霊魂説にも与しません。「自他不二」「主客合一」とか、仏教なら「梵我一如」（ぼんがいちにょ）などとも呼ばれる東洋流「悟り」の境地を、後には有名な「絶対矛盾的自己同一」という独特の言い方で「場」の中に定置してみせることになります。

「主客を没したる知情意合一の意識状態が真実在」であるとし、実在の分化発展という節で曼荼羅的世界観とも今日のフラクタル理論の嚆矢ともとれる見解を披瀝し、さらに「物体が意識を生ずるのではなく、意識が物体を作るのである。最も客観的なる機械的運動という如き者も我々の論理的統一に由りて成立するので、決して意識の統一を離れたものではない。これより進んで生物の生活現象となり、更に進んで動物の意識現象となるに従って、その統一はいよいよ活溌となり多方面となり且つ深遠となるのである。」という行為論と自然観に至って、いよいよ客観合理主義を離れ、生命の起源や進化の不思議へと、読む者の心をいざなってやみません。ツノゼミだのハナカマキリだのにいまだに感動を覚える私には、「念ずれば通ず」で俺だってまだ少しは進化できるんじゃないか？なんて身の程知らずな妄想までも抱かせてしまうのです。

場の哲学から発展させた生命関係学を標榜する清水博先生の「相互誘導合致」「フィードフォワード」「予測不能の無限定状態での普遍の必殺技」柳生新陰流の極意など、半可通のまま述べたいことも山ほどありますが、それは「場」を改めることに致しましょう。

客観科学万能のような錯覚を抱かせかねない高専教育からは、だいぶ隔たったところにある書物ですが、長い夏休みのひととき、著者とともに思索の世界に浸ってみるのもまた違った頭の体操になるに違いありません。岩波文庫でなく講談社学術文庫なら注釈つきで読めるみたいです。青空文庫ならネットで無料で読めちゃいます。いい時代になりました。

ISBN-13: 978-4003312414

記憶に残る本・記憶に残らない本

一般教科（社会）　川﨑　俊郎先生

このコーナーで紹介される本は、紹介する側がお勧めしたい本となっているが、それは同時に紹介する側の記憶に残っている本である。万人に役立つのであろう本であれ、紹介してもしなくてもいいような本であれ、紹介する側の記憶になければ、紹介のしようがない。

さて、人間には短期記憶と長期記憶がある。紹介する本でいえば、思い出の本、何かのきっかけになった本が長期記憶にあり、最近読んで面白かった本や役に立った本が短期記憶にある。まずは長期記憶に属する本から紹介することにする。

個人的に強い印象の残っている本、つまり長期記憶に残されている本としては、会田雄次の『アーロン収容所』（中公新書）、城山三郎の直木賞受賞作『総会屋錦城』（新潮文庫）、岡崎久彦の『戦略的思考とは何か』（中公新書）などがある。これらの本に共通するのは、一般的な世間の基準（あるいは学校的な基準）とは別の基準、ものの見方がこの世の中にはあるということを教えてくれたことである。

『アーロン収容所』では第二次世界大戦中のイギリス人が持っていた対日本人観、日本人社会における隠されたルールなどが紹介されている。現在では通用しないような部分もあるが、物事の「裏を見る」ことを最初に知った本であった。印象的な部分をあげれば、事故死した日本人捕虜をみてイギリス兵が「Finish」といってその死体を蹴り上げたというくだりである。「フィニッシュなら葬式もいらんからな」とつぶやく日本人捕虜とあわせて、「人間扱いする」とはどういうことなのかを考えさせてくれる。

城山三郎の『総会屋錦城』は中学生から高校時代、お気に入りの作品であった。とくにつぎのくだりが印象に残っている。

「桁ちがいのダニである。たしかに総会屋もダニだ。間宮も一匹のダニ。錦城もダニ。貫禄や実力大小の差はあっても、ひとしく会社の闇の血をすって生きている。どの大企業にも、数匹、数十匹のダニがついている。用といえば、年に二回の総会ですごんだ声をかけるだけ。無職無税のひまな体で、会社の秘書課あたりにとぐろを巻き、帳簿にのらぬ金を食って生きていく。だがそれ以上に大きなダニが悪質な顧問弁護士や公認会計士なのだ。明るい血だけでは満足せず、膨大な闇の血を要求する。企業は成長し、ダニもまた成長する。銀行もデパートもメーカーも、白く輝く白い衣装の内側は、そうした闇の血を吸う大小のダニにとりつかれている。間宮の目には、それらのダニの血ぶくれした甲殻が金緑色に光って見えた。」

高校生などというものは、とかく偽悪的な振る舞いをしたがるもので、一時、将来は小説に出てくるような総会屋か弁護士か公認会計士になろうかと思ったこともある。何がまっとうな職業で、何がまっとうでないのか、資格や立場で決まるものではないことに気づかせてくれた本のひとつである。

岡崎氏の著書は、「日米同盟」なる言葉がマスコミに登場することもなかった1980年代に、正面きって日米同盟の意義をわかりやすく説いたものである。当時は日米安保条約を肯定的に論ずること自体タブー視される傾向にあったので、パワーポリティクスを平易に解説した同書は、教科書にない新しい視点を与えてくれた。同氏の同時期の著書としては新潮文庫から出ていた『国家と情報』があり、こちらも日本を含めた主権国家を客体化して考えるという手法を学ぶことができた。

つぎに、短期記憶に残る本、つまり最近読んだ本のなかで面白かった本をリストアップしておこう。ここでいう短期記憶とは、１～2年の間に読んで記憶に残っている本という意味である。またいずれもいわき市内で購入可能あるいは市立図書館で借りることができる本である。

福岡伸一『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書）、生物学は高校1年生以来、無縁であったが、同書を読むとあらためて面白い学問分野であることがわかる。福岡伸一氏の著書としてはこのほかに『動的平衡』（講談社）、『世界は分けてもわからない』（講談社現代新書）などが面白かった。福岡氏の著書ではないが『ハチはなぜ大量死したのか』（文芸春秋）も面白い科学読み物である。同書の解説を福岡氏が担当している。

佐藤優『獄中記』（岩波現代文庫）、あの鈴木宗男衆議院議員と連座して一躍有名になった元外務省職員の体験記。同氏は外務省の業務に関連して偽計業務妨害および特別背任の容疑で

東京拘置所に512日間拘留された。その拘留期間につづった読書日誌、弁護士や職場とかわした手紙をもとに本書は構成されている。512日間、読書と物書き、食事以外は何もしなくてよいという東京拘置所の環境を、同氏は「勉強をするには最高の環境」といっている。佐藤氏の著書は著者の立場が明確なので、好悪はともかく読みやすい内容の本が多い。『国家の罠』、『自壊する帝国』（いずれも新潮文庫）、『国家と神とマルクス』（角川文庫）などが入手しやすい。立花隆氏との共著『ぼくらの頭脳の鍛え方』（文春新書）は、ブックガイドであるが、両氏の対談は勉強方法や情報分析の姿勢を学ぶうえでためになる。

市岡伸一氏の『勉強法が変わる本』（岩波ジュニア新書）は勉強方法の書籍を読み漁っている中で出会った。最初は和田秀樹氏の勉強方法に関する本などを図書館で借りて流し読みしていたが、そのなかに市川氏とのメールと手紙による討論があり、市川氏のほうに興味が移った。同氏の著書は学生にはいささか難しいかもしれないが、「頭がよくなる」とはどういうことか、勉強するとはどういうことかを考えさせてくれる。「ゆとり教育批判」も一方的な批判ではなく、成長段階に応じた勉強方法や教材選択を提案している点も好感が持てる。なお、即物的な勉強方法の本としては和田氏の各種著書がわかりやすい。ただし受験生向けなので高専生にどれだけ役に立つかは不明である。ちなみに岩波ジュニア新書を「お子様向け」のシリーズと捉えるなかれ。基本的なことを理解したいと考えるならば、まずこのシリーズから入り、その後より専門的な概説書を読むのがよい、というほどに内容は高いが書き方は平易である。

加藤陽子氏の『それでも日本人は「戦争」を選んだ』（東京大学出版会）は刺激的な本である。高等学校レベルの歴史的知識をベースに、なぜ日本は太平洋戦争という無謀な戦争に突入していたのか、その原因を軍人や政治家だけに押し付けることなく解き明かしている。この本の面白いところは、実際の高校生を相手に行った出前授業での講義と質疑応答をベースとしている点である。講義を受けたのは私立栄光学園の歴史研究会のメンバーであるから、歴史的知識は通常の高校生より豊富である。しかし彼らの思考力や判断力がその他の高校生より格段に優れているとは考えられない。つまり一般的な教養をベースに太平洋戦争の原因を歴史的に理解することは難しくないのである。教養の重要性とすばらしさも教えてくれる本である。

『もう一度よむ山川日本史』、『もう一度よむ山川世界史』（山川出版社）は最近の教科書ブームの火付け役となった本のひとつである。以前に高等学校で日本史、世界史を習った人、まだ日本史、世界史を習っていない人、どちらもいちど通読されることをお勧めする。スタンダードな歴史の知識をコンパクトに学ぶことができる。

さて最後に、記憶に残らないような本も読んでいるが、これは記憶に残っていないので、紹介しようにもしようがない。ただ、意外と記憶に残らないような本に、いい本が隠れているかもしれない。ここで紹介しなかった本もぜひ手にとって読んでほしい。

この文章で取り上げた本の一覧を以下に示す。並べ方は、著者五十音順、同一著者の場合は初版の古い順に並べた。一部の本は文庫本や新書になる前に単行本として出版されたものもある。

会田雄次(1962)『アーロン収容所』中公新書
市川伸一(1997)『考えることの科学』中公新書
市川伸一(2000)『勉強法が変わる本』岩波ジュニア新書
市川伸一(2001)『学ぶ意欲の心理学』ＰＨＰ新書
市川伸一(2002)『学力低下論争』ちくま新書
岡崎久彦(1983)『戦略的思考とは何か』中公新書
五味文彦ほか(2009)『もういちど読む山川日本史』山川出版社
佐藤優(2007)『国家の罠　外務省のラスプーチンと呼ばれて』新潮文庫
佐藤優(2008)『国家と神とマルクス』角川文庫
佐藤優(2008)『自壊する帝国』新潮文庫
佐藤優(2009)『獄中記』岩波現代文庫
城山三郎(1962)『総会屋錦城』新潮文庫
「世界の歴史」編集委員会編(2009)『もういちど読む山川世界史』山川出版社
立花隆・佐藤優(2009)『ぼくらの頭脳の鍛え方』文春新書
福岡伸一(2005)『プリオン説はほんとうか？』講談社ブルーバックス
福岡伸一(2007)『生物と無生物とのあいだ』講談社現代新書
福岡伸一(2008)『できそこないの男たち』光文社新書
福岡伸一(2009)『動的平衡』木楽舎
福岡伸一(2009)『世界は分けてもわからない』講談社現代新書
ローワン・ジェイコブセン著(2008)、中里京子訳(2009)『ハチはなぜ大量死したのか』文藝春秋

10代の頃は自分の読んだ本を他人に知られるなど恥ずかしいことでした。自分から話題にだすなどとんでもない。自分のお気に入りの本を批評されることに抵抗でもあったのでしょうか。今は好きな本について語るのは何の抵抗もありません。何年か前に本校の図書館で専門書を除いて貸し出し回数最高となったある本は授業中に話題にした本でした。ノンフィクションで賞を取った知人がいますが、その方に別のある本を勧めたところ、「時々、読むのが止められないという本に出会います」と評して下さいました。

今回はどの本を語ろうか。担任しているクラスに弓道愛好会に所属している者がいるから「弓と禅」を勧めたいところですが、何年か前にビブリアに匿名で推薦してしまった...。そうだ、あの本にしよう。

「脳外科医になって見えてきたこと」

「挫折によって医師になることを決めた」著者は「偶然」もあって脳外科医の実習に入る。「たまたま」誤診に気づき見込まれて脳外科医となる。脳外科医としてやっていくには先輩医師のようにある種の精神異常「サイコパス」にならざるを得ない。難しい手術をすれば小さなミスでも患者を死に追いやってしまう。しかし、その手術を必要とする者がいる。ミスをしても「悪夢を受け入れ」「サイコパス」に「変身」して次の仕事に向かうしかないのである。しかし、辛いことばかりではない。ある患者にとっては著者の妻や子供から必要とされるどのようなときよりも強く必要とされる。ときには自分の手術で奇跡的な回復をみせる患者を目の当たりにし「例えこのまま墓に入ろうとも満足」する。

この本は純粋に脳外科医の話として読んでも面白く感動的である。ある箇所で私は声を出して笑い、ある箇所では不覚にも涙がこぼれた。しかし、この本は、職とはどういうものかという視点で読んでも興味深い。職に就くのに「偶然」の要素は大きい。そしていかなる職でも成功する仕事の影に失敗があり、時に「悪夢」のような出来事も受け入れ、「サイコパス」のように振舞わねばならない。そして時に訪れる成功に満足感を得る。

私は「例えこのまま墓に入ろうとも満足」そう思えるように行動したいものだと考えさせられました。原著"When the Air Hits Your Brain"は高評価。だからこそ日本語訳されたのでしょうが、日本での評価は高くない。それでも読んでみませんか。私がどこで涙し、どこで笑ったか当てたら食事をご馳走しましょう。

そして、あなたのお気に入りの本を教えて下さい。

一般教科　（数学）新井　広先生

ISBN-13: 978-4794208927

“技術開発”の考え方

電気工学科　植 英規先生

高専で学ぶみなさんに、私からは次の本を紹介したいと思います。

『技術にも品質がある
～品質工学が生む革新的技術開発力～』
長谷部光雄著　日本規格協会

ご存知のように、現在、多くの日本企業が生産拠点をアジアなどの“賃金が安い国”に移転させており、生産部門での徹底した品質管理（QC: Quality Control）に支えられてきた日本のものづくりは、今や高コストな国内生産に耐えられなくなってきたように見えます。これは高専で学んでいるみなさんにとっても他人事では済まされない問題です。

本書では、日本のものづくりが再び輝くために必要なのは“プロジェクトX（今の学生さんに分かるでしょうか？）的な汗と涙”ではなく、科学的理論に基づいた“技術開発力”であるとし、日本人である田口玄一博士が考案した品質工学（QE: Quality Engineering）の考え方について解説されています。

品質工学は、世界的にはタグチメソッドと呼ばれ、田口博士はこの提案で80年代、経済的に停滞したアメリカを蘇らせた男として自動車殿堂入りを果たしています（日本人の殿堂入りは本田宗一郎氏、豊田英二氏に続き３人目）。日本でも、自動車、電機、プリンタなど世界で強い競争力を持っている分野の企業で積極的に導入されており食品や化学などの分野へも広がりを見せている、といえば少しは興味を持ってもらえるでしょうか。

品質工学は特定の専門分野にこだわらない汎用的な考え方です。学科を問わず（コミ科のみなさんも）、興味を持った方は、学生のうちに一度この考え方に触れてみるのも良いかと思います。

ただ、この本の内容は、まだ社会に出ていない学生のみなさんには少しイメージし難い部分もあるかもしれません（本書は経営者に向けた本だそうです）。そんな時は、同著者が小説仕立て（！）で品質工学を紹介したこちらの本がお勧めです。架空の技術者・矢吹慎一郎の製品開発の様子を追うことで、品質工学の基本的な考え方が理解できるという珍しい形式の解説書です。

ISBN-13: 978-4542511279

『技術者の意地
～読むだけで分かる品質工学～』
長谷部光雄著　日本規格協会

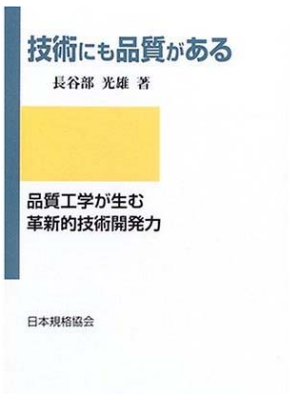
ISBN-13: 978-4542511347

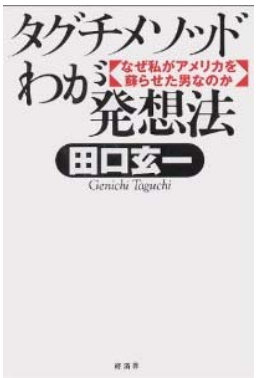
最後に、品質工学の創始者である田口博士の著書から、こんな言葉を紹介します。これを見て興味、または反感を持たれた方は、ぜひ今回紹介した本を読んでみて下さい。

“各企業への感謝をこめて、声を大にして言いたいのは「品質はコストより重要でない」ということだ。よく「品質第一主義」という言葉が使われるが、品質第一主義の会社は必ず潰れる”

（**『タグチメソッド わが発想法 ～なぜ私がアメリカを蘇らせた男なのか～』田口玄一著 経済界** より）

ISBN-13: 978-4766781939





意味という病

物質工学科　車田　研一先生

今ごろの季節の暁ふと寝苦しくて目が覚めたとき脳裡に泛かぶ映像は奇妙に輪郭がはっきりしていて，わたしたちになんの理由もなく所在なさを感じさせる，いわば無慈悲なリアリティーがある。それはわたしたち自身が毎日べったりとはりつけられているところの，退屈に感じられることがあるいっぽうで漬物石のような親しみのある感触と重量を具えた日常のリアリティーとは異なった原色的なムーヴィー（movie）である。そのムーヴィー的な心象世界は，わたしたちが娑婆（日常の世界）で定型的に思考しようと企てて届くことができる射程をはるかに超えた，なにかグロテスクなクリアさを有する。

わたしたちはみな，それぞれに「クリア（clear）」な認識をそなえ，かつ身のまわりの小さいながらもいとおしい世界の断片と自然な調和をもって生きたいと日々切望しつつ，しかし，「クリアにあろう」と懸命になっても決して望むような状態へは到れないし，調和もできない。だれもが自分自身がいまそこに生きているという事実性になにかしらの違和感を感じながら生きている。皮肉なことに，わたしたちが自分自身で「クリアに考えよう」とすればするほど，思考過程をいつのまにかある自己納得のための枠へはめこみ，収めてしまう。その過程でうみだされるひとつの自己完結的で凡庸なストーリーが，おそらく筆者柄谷行人が謂うところの「意味（という病）」であり，「烙印をおしてとりあえず安心してしまおう」というひとつの固着的態度である。いや，本質的にはこれは逃避的といってよいだろう。

わたしが柄谷の文芸評論をはじめて読んだのはたぶん皆さんくらいの年頃だったと思う。そのときの読後感はすでに憶えていないのだが，以来，どうしてもことあるごとに気になって間歇的に何十回となく読んでしまう。理由はわからない。要するに一種の中毒のようなものだ。極めて凡庸な一読者たるわたしにただひとつ憶測でいえるのは，柄谷は，あの夏の暁の寝苦しさのなかで脳裡に泛かぶ，定まったかたちがいっこうになくて，するすると入り組んだ脳神経の隙間に流れ込む表面張力も粘性もない透明な流体のような透視的イメージのなかに，できるだけ外力を排したかたちで自発的にうかびあがってくる「思考のかたち」を見い出そうとしているのではないか，ということだ。

森鴎外の作品に『阿部一族』という有名な短編がある（岩波文庫など）。多くの人がいちどは読んだことがあるだろう。率直なところ，この短編が一般的な意味で「お勧め」できるのか否か，悩ましい。それくらい奇妙な鮮烈さばかりが読後に残るのである。『山椒大夫』，『最後の一句』も同様だ。上記の三例のような通則的な意味での陰惨さがないものでよく知られたものとしては『寒山拾得』が挙げられるが，これも頭のなかに鮮烈な「？」を鳴らしつづけてくれる。じつは，『意味という病』の第一部「歴史と自然―鴎外の歴史小説」を読んだとき，ああこれだ，と思った。と同時に，「思考」で生きていくことを決意し，その作品（ここでは評論作品）への結実を実行することが要求する継続的で尖鋭な意志の毛羽立ちに耐えぬくことの痛さにしびれ，畏れた。柄谷記，「それは出来事を別の一つの原理によって還元することへの拒否，いいかえれば出来事を何ものかの影としてでなくそれ自らが光を放つものとしてみようとする意志である。」

『意味という病』
（講談社文芸文庫刊行）　柄谷行人著
ISBN-10: 4061960563
ISBN-13: 978-4061960565

ディスカバー　吉里吉里語

一般教科（体育）秋山　秀博先生

学生諸君にお薦めの本は、ということで図書からの依頼があったのは、第47回東北高専大会へ出発するほぼ一週間前のことであった。原稿にはこの大会が済んでから向かうことにしよう！と軽々に決めた。

早朝ケヤキ前を出発したバスは、東北自動車道を一路八戸へと向かっていた。昨年の大会にはわずか７人だったわが柔道部は今年、14人の（大？）選手団となっていた。その中に何故か遠く岡山県からやってきて柔道未経験ながらも、欠かさず練習に参加している真面目な女子部員が含まれていた。無論東北の旅は初めてというので、さも知り尽くしているかの如く、仙台を過ぎ一関にさしかかった辺りからガイド秋山の流暢な説明が始まった。「これから県土の面積としては最も広い岩手県となる、知ってるだろう？！義経を守ろうとして何本もの矢を体中に受けながらもなお立ったまま死んだとされる弁慶のことを。また、もうすぐ行くと花巻、色々な方面に造詣が深く、有名な、ほら！知ってるだろ！誰だっけ？！」いやな顔一つせず聞き入ってくれている真面目な女子学生に向かい、口がなめらかとなってしまった小生はペラペラと続けた。

さすがに真面目な彼女もちょっと飽きたかなというころ、そこは花巻を過ぎ、盛岡まではいくらかある辺りだった。車窓からの風景を見ていた私は「ハッ！」と、例の原稿のことが浮かんだ。そうだ！この辺りではなかったか？日本国から突然独立を企てたあの謎の国家、吉里吉里国に住む『吉里吉里人』（井上ひさし著）の話は。

この本は、「十和田3号」なる夜行列車が、上野を出発し常磐線「平駅（当時）」や「原ノ町駅」を通り、仙台を通過した後、朝方六時頃、乗客800名余りが吉里吉里人（きりきりじん）と称する暴徒約70名により連れ去られる、という話から展開する物語である。 吉里吉里国（きりきりこく）とは、吉里吉里人を名乗る者達が、およそ国が成り立つために必要な内容を全て周到に準備した上で、日本国からの分離・独立を企てた小さな国家であり、主人公の古橋健二なる遅筆の作家は、この国への記念すべき＜移民第１号＞となった物語であったと記憶している。

国家ということからそのために必要な政治、経済をはじめ、教育や科学・医療に至るまで色々な問題が取り上げられていて全く飽きることがなかった。実はこの本、今から30年も前に出版された本である。裏表紙の遊び紙に次のような内容が記されていました。

1981年、師走　　八戸　木村書店にて
冬休みを間近に控え、八戸高専学生諸君は、定期試験に集中している

つまり、この年の8月出版された『吉里吉里人』をその年の12月に後期中間試験の真っ最中に購入し読みふけったのであった。仙台から盛岡南部に通じる地域の方言と東北訛りとが自然とからだ全体に染みわたるほどの相性の良さを感じながら読み進めた記憶がある。そして朧気ではあるが、小生自身小学生の時に味わった＜方言蔑視＞の学校教育に対する問題意識が作者と妙に共鳴したのを鮮明に覚えていたのである。つまり、そういった教育問題、その他現代でいうところのエコやリサイクルに関する所謂「環境問題」や動く野菜「トヌキ」を作り出す遺伝子学の問題、さらには先端医療の抱える問題等々内容が本当にいろんな分野に亘っていたことだけははっきりと覚えている。

ただ、前述の如く30年ほど前に読んだもので、且つかなりの長編小説であり、細かい内容については鮮明に記憶していない、そこで今回の推薦を機に自分自身も改めて挑戦してみたいと思っている。今年４月に逝去された井上ひさし氏は、「ことば一つ一つに最大の力を宿らせるための命を削った闘いをされた」（2010/4/13朝日天声人語）とのことで、そのことば一つ一つに是非もう一度触れてみたい、そう思っている。

ところで「人間一人で泣くことはできるが、一人で笑うことはできない」とは誰かが言ったことばであったが、実というとこの本は、笑わないではいられないほど、とにかく面白い小説であることを強く申し添え、この本を自室で読む際は、ドアをしっかりと閉めて読んで頂きたい、家人に変な目で見られてしまいますので。

銃・病原菌・鉄

建設環境工学科　高橋一義先生

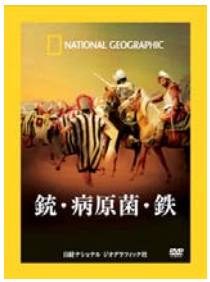
この世界には，「先進国」と呼ばれる国々があります。技術水準や生活水準が高い国を指し，日本もそのひとつに数えられています（社会科の授業やニュース番組などで耳にしたことがあると思います）。しかし，世界の大部分のひとびとは，先進国以外の地域で物質的に恵まれない環境で暮らしています。

では，なぜ先進国のように物質的に恵まれている地域（国）とそうでない地域（国）がこの世界に混在しているのでしょうか？

ここで紹介する『銃・病原菌・鉄』は，そのような「地域の格差が生じた根源的な要因は何であるのか」を解き明かしてくれます。
著者のジャレド・ダイアモンド教授（カリフォルニア大学）が30年にもわたる研究の末たどり着いた「答え」は，書籍名である銃・病原菌・鉄です。そして，それらを生み出した要因として地理的な条件を挙げ，遺伝的な優劣や努力が今日の格差の根源的な要因でないと説いています。
みなさんが研究者や技術者として活躍する上でグローバルな視点を養うことは大切です。個々の専門分野に精通するとともに，自分たちの住んでいる世界の現状や歴史に目を向けることをお勧めます。この本を読み終えると，きっと自分が住んでいる世界について，より理解が深まったと感じることができると思います。

『銃・病原菌・鉄』は，上巻・下巻の書籍のほか，著者本人がナビゲーターを担い地域格差が生じた根源的な要因に迫るドキュメンタリー風の映像資料がDVD化されています。こちらは，DVD 3枚組で構成され(約50分/枚），映像による解説があるので短時間で内容を理解することが可能です。まずは，DVD鑑賞から・・・

『銃・病原菌・鉄〈上巻・下巻〉―1万3000年にわたる人類史の謎』
ジャレド・ダイアモンド著，倉骨　彰訳，草思社
ISBN-10: 4794210051



「銃・病原菌・鉄」DVD3巻セット
日経ナショナル ジオグラフィック社

プロローグ　ニューギニア人ヤリの問いかけるもの／第1部　勝者と敗者をめぐる謎（一万三〇〇〇年前のスタートライン／平和の民と戦う民との分かれ道／ス ペイン人とインカ帝国の激突）／第2部　食料生産にまつわる謎（食料生産と征服戦争／持てるものと持たざるものの歴史／農耕を始めた人と始めなかった人／ 毒のないアーモンドのつくり方　ほか）／第3部　銃・病原菌・鉄の謎（家畜がくれた死の贈り物）

第3部　銃・病原菌・鉄の謎（承前）（文字をつくった人と借りた人／発明は必要の母である／平等な社会から集権的な社会へ）／第4部　世界に横たわる謎（オーストラリアとニューギニアのミステリー／中国はいかにして中国になったのか／太平洋に広がっていった人びと／旧世界と新世界の遭遇　ほか）／エピ ローグ　科学としての人類史

最近の図書館

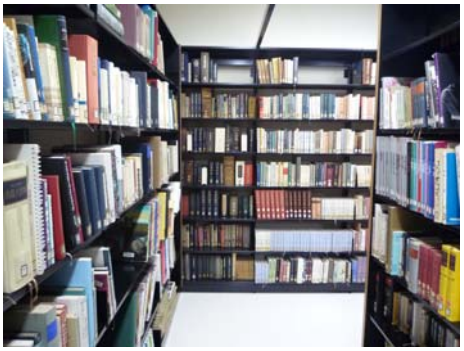
図書館は、独立の建物です。正面玄関が2階という傾斜地に立つ建物でもあります。図書館への階段を上がると、見えてくるのが、POPな掲示物です。ビブリアは年2回の発行ですが、このポスターは更新期間が短いので、新着図書、話題の本、読書マラソンの情報など、図書館の今をお知らせしています。

図書館玄関の掲示板
新着図書などを紹介しています。

閲覧室前の掲示板
ニュースと関連した図書を紹介しています。

読書マラソンランナーの情報（実況）も行われています。

ポスターは図書館スタッフが作成しています。



この写真の場所、わかりますか？
配架位置の変更など利用しやすい図書館を目指して活動中です。

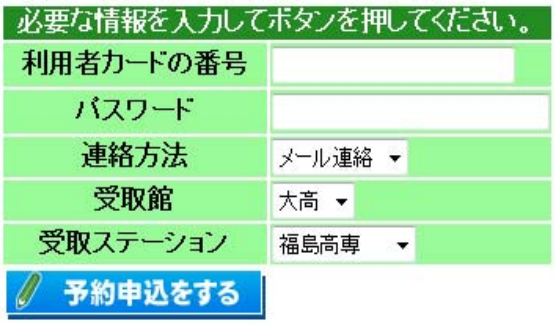
根強い人気の横山三国志
まもなく全巻展示です。

市立図書館の本を借りるには

市立図書館のHPから予約できることは、既に多くの方が利用されていると思うのですが、予約した本を図書館の本を受け取る場所も指定で着るようになっています。もちろん、高専の図書館で受け取ることもできるのです。（返却も可能です。）

市立図書館のHPにアクセスします。URLは
http://library.city.iwaki.fukushima.jp/
　蔵書検索がトップページから行えます。
あるかなぁ・・・と期待を込めて、借りたい本、ここでは「福島高専」と入力しました。

その結果、書名が福島高専から始まる書籍が3件あることがわかりました。
　保存用図書の貸し出しは行っていませんので、今回は創立20年誌を借りることにして、予約ボタンを押します。



　利用者カード番号と登録していたパスワードを入力して、次の項目“受取館”に注目です。
　ここでは、「大高」＝大学・高専　を選択します。すると、受取ステーションが表示され、福島高専を選ぶことができます。便利ですよね。I-TOSS！

　ちなみに福島高専の創立20周年は198２年でした。バブルに向かってまっしぐらな時で異常に元気が良かった時代でした。
　電話はダイヤル式、暇つぶしは喫茶店、インベーダーゲームが100円でした。

読書の秋に向けて「読書マラソン」について

本を読んでいるなら、感動、感激など本を読んで、その本の良さを伝える感想、あるいはつぶやきみたいな一言、コメントなどを誰かに伝えて読書の楽しさを共有しようという企画です。

読書の必要性？

レポートや課題のために本を読むのも読書です。興味ある分野、おもしろいよと勧められた本を読む時のワクワク、ドキドキ感。本棚から私を惹きつける力を感じれば本の中から生きるためのヒントや応援を受け取れるかもしれません。読書は、自分の成長、自己形成の強力なツール、視野を広げ、誰かとの語らいを呼び、読者のコミュニケーション力を高めることにも役立つこともあるでしょう。読書によって様々な時代、世界の人との対話さえも可能にします。本を読んで考える、そういえば、学びて思わざるは・・・と古代中国の賢者のことばもありました。

福島高専　読書マラソンについて（参加方法と特典）

①まずはエントリーです。

・「学年・学科・氏名（本名＋ランナーネーム）

②そして読書です。

・エントリー後に読んだ本が対象です。
・福島高専図書館にない本でもポイントの対象です。
・レポート作成などの参考図書もOKです。

③紹介カードにコメントを記入して提出してください。

・記入した紹介カードは図書館スタッフに渡してください。
・紹介カードにランナーネーム（本名でもOK）を書いてください。
・カードは、掲示、図書館HP等広報物に利用する場合もあります。
・紹介された本は、リクエストがあれば、図書館に取り揃えることがあります。
・各参加者のポイントは、図書館棟の掲示板に実況中継のように掲示します。（希望者のみ）

・ポイントがたまります

・100ページごとに、1ポイント捺印します。
※ポイントは10の位で切り捨てて捺印します。　例）290ページでも2ポイントです。
※160pの本を2冊読んだ場合、2ポイントとなります。（320pで3ポイントとはしません）
※ポイントカード有効期限は、年度区切りとします。

・ポイントがたまったら・・・

・ポイントが30たまった場合、ブックハンティングの優先的参加権（本の選択権も）を行使できるなどを検討しています。今年度第2回目のブックハンティングは12月に計画しています。
・学年末、最もポイントが多い人は、「COR（Champion of Reader）」として図書館の広報などで紹介します。

etc/etc/etc　蔵書の整理について

図書館の蔵書の整理が定期的に行われています。その結果、蔵書として役目を終えた本は、リストから外れ、本として第二のスタートを迎えます。ある本は、11月の学園祭でリサイクル本として新しい持ち主を待ちます。ある本はシュレッダー処理、また別なものはｋｇ当たりいくらかで売買され本校から離れて行きます。本として幾らかでも役立つ時間が長いことを祈るばかりですが、書庫の広さ,収容できる最大数が有限、知識や情報の寿命が極めて短く、爆発的に増加している状況では、情報の取捨選択と蓄積が図書館でも重要になっています。I-TOSS、福島県内大学図書館や県立図書館、長岡技科大図書館など外部図書館との連携を強めるのも、それぞれの館の得意分野を伸ばすことで全体としての図書館の機能を強め、利用者へサービスを提供するという図書館の姿勢を示すものと言えます。

蔵書を外れる本は、昭和に発行されたものが大部分を占めます。40年前の本では内容の陳腐化は否めず、歴史的な評価を加えても保存とはならなかったものが多数あります。昭和とはどんな時代だったのでしょう。昭和は64年という時間を重ねただけでなく、戦争へ向かい,戦い敗れるという初期の20年、その後30年は焼け野原,敗戦国からの復興・高度成長期、その後の10年は成長の余韻と混乱、最後の4年はバブルとその崩壊と価値観の激変と多様化した時代でした。平成と年号が代わり、失われた20年などの評価される時間を経て今日に至っています。

昭和（後半）と平成の違い　「もえかた」の差でしょう。何でも「燃えていた」のが昭和です。男も、女も,パリも、トラクターまでが燃えていました。野球、プロレスのマンガが全盛期で目の中に燃え盛る炎、闘志に燃える投手と打者の対決、悪と戦う正義のレスラーの後ろにも炎があり、それらが素直に受け入れる時代でした。一方,平成のもえ方は「萌え」で、萌えているのか、萌えればなのか曖昧です。マイブームからムーブメントとして力を持つようになりましたが、社会的なシステムが萌え対応ではないため、いまいちな状況が続いているのではないかと考えたりもしますね。

キーワード“萌え”本を集めてみました。数学,経済,歴史,鉱物・・・・・何でもありですが、萌え疲れ？かな

電子書籍　電子辞書の良いところは機能と軽さでしょう。これに追記,更新といった機能が加われば、もう恐いものなしにも思われます。電子書籍版のベストセラーと冊子体のベストセラーが異なるなど、これまでの出版、本の常識が大きく変わることでしょう。病院の待ち時間には、青空文庫から坊ちゃんをダウンロードして読んでいます。青空文庫は著作権切れのフリー書籍を集めていますが、書籍の電子化、特に日本では著作権の調整が難航しているため、世界的な流れから取り残されてしまう可能性があります。私たちは、著作物（電子書籍　ソフト）をどの機械（ハード）で読むかの選択も必要になります。あれでは読めるけど、これでは読めないなど、紙にはないもどかしさが残ります。ハード非互換で、シェア争いを続けるのでしょうか。読む環境（ハード）に強く支配される電子書籍に対して、重くて場所を取る従来型”書籍は、文庫本、新書など重さと大きさを逆手に生き残りの道を探すことになるのでしょうか。教科書が電子化されたら、カバンが重いとかロッカーに入り切れないという言葉は消えてしまうけれども、壊れたりなくした時のダメージはとても大きくなりますので、保険など友タイアップが登場するかもしれません。中古の電子書籍を流通することは？　不正コピーをどうやって防ぐのか、ハード権利を含む（ソフト）で新たな問題を生み出しながら電子化へ大きく走り出しています。地方公共団体の図書館、大学、高専の校図書館は、本という紙メディアの貸出を続けながら、重さのない電子書籍をどう扱うのか、電子書籍への対応を取るのでしょうか、社会はどんな対応を求めるのでしょうか。

オススメの一冊

「天地明察」 沖方丁　著　角川書店　2009

2010年本屋大賞受賞作品です。江戸、四代将軍家綱の御代日本独自の太陰暦を作り上げることに一生を懸けた、渋川春海の物語--日本文化を変えた大いなる計画を、個の成長物語としてみずみずしくも重厚に描く傑作時代小説です!！キャラクターそれぞれが個性的かつ魅力的で、文章も現代風な言い回しで書かれていたりして、ページ数を気にせず一気に読めます。

Hauska tutustua！

ハウスカ　トゥトゥストゥア！

【フィンランド語】：はじめまして！

みなさんはじめまして。いきなり、フィンランド語でごめんなさい。
４月より福島高専図書館で司書として働くこととなりました、佐藤絢香（ｻﾄｳ　ｱﾔｶ）と申します。とにかく本が大好きで、この仕事を選びました。まだまだわからないことが沢山ありますが、みなさんのお役に立てるように頑張ります。

自己紹介も兼ねて、フィンランド語で挨拶させていただきましたが、フィンランドが好きなだけであって、フィンランド人ではありませんので悪しからず…

＜自己紹介＞
佐藤絢香（22才）：生まれも育ちもいわきです。３月までは大学生をしていました。
好きなもの：読書、マンガ、音楽(Rock・HipHop・クラシック)、散歩、旅行、フィンランド
嫌いなもの：ナス

ざっと、自己紹介をしてみましたが、とりあえずこんな人物です。見た目は、「パンダっぽい」と、友人に言われます。ですので、もし興味を持っていただけたら、図書館にお越しの際はパンダっぽい人を探してみてください。お気軽に話しかけてみてくださいね。（噛みついたりはしませんので…）

大学では心理学を専攻していましたので、福島高専図書館にも心理学関係の書籍が増えたらいいなぁ…なんて考えたりしています。
…このような感じで自己紹介および挨拶を終わらせていただきますm（_ _）m

福島高専図書館報　No.108

編集　福島工業高等専門学校
図書館運営委員会

電話 0246(46)0708
FAX 0246(46)0728
Email: tosyo@fukushima-nct.ac.jp

2010 国民読書年
じゃあ、読もう。

知りたい心を応援します。
福島高専　図書館

面白い本に出会ったら、
その本の良さを誰かに伝えてみませんか？
読書マラソン
ランナー募集中です。

2010年度の図書館の企画予定表

実施時期	実施内容
２０１０年	
４月～６月上旬	新入生のための図書館利用ガイダンスを実施
６月１７日（木）～２３日（水）	第１回ブックハンティングを実施
７月１日（木）	I-TOSS運用開始
７月５日（月）～１１月６日	読書マラソンスタート 古本市（磐陽祭） 図書館で廃棄した図書（本・雑誌）を磐陽祭の来場者にお譲りします。掘り出し物を見つけられるかもしれません。
１０月～１２月	**本科４年生のための文献検索講習会** **今後卒業研究に取り組む4年生を対象に、効率よく学術情報を集めるために便利な学術データベース（主にCiNii，J-DreamⅡ）の特徴や使い方を中心に説明します。**

１２月８日（水）第２回ブックハンティング開催
会場：鹿島ブックセンター

「図書館に置きたい本を選ぶ」企画です。本屋さんで“いい本”を探しましょう。リアルブックハントへ行きましょう！
参加申し込み：図書係へお願いします。

図書館へのリクエスト　欲しい本、探している本などの情報は、リクエストボックスまでお願いします。ちょっと勇気を出して図書館カウンターまで教えて下さい。＋αなことがあるかもしれません。

図書館カウンターで行っているサービス
リファレンスサービス、図書の貸出、返却受付、I-TOSSの紹介と予約などの手続き、ブックリクエストの受付
一般利用者への案内、ブックハンティングなど図書館企画行事の受付などです。
MS-OFFICEのインストールCDの貸出も行っています。
冊子から電子情報まで、図書館は情報のゲートウェイを目指しています。
あなたの好きな方法で情報の海から、キラリと輝く結晶を作り出して大きく育ててください。
図書館は情報を提供するだけでなく、元気づけてくれたり、ほっとできる優しい場所だったりもします。
利用者に優しい図書館でありつづけるために、様々な情報を取り入れ提供します。どうぞよろしくお願いします。

編集後記

原稿をお寄せくださった皆様、ありがとうございました。108号は先生方からの原稿で構成した特集号となりました。読書マラソンへの参加もお願いします。表紙は夏から秋にかけて校舎内外の様子と10月に亡くなった*Mandelbrot*,博士を偲んでフラクタル図形を埋め込みました。きれいな図形をPC画面に描けるとと教えられ、ゆっくり画面に描かれる何ともきれいな図形に見入った頃を思い出しました。あのプログラムはにBasicでした。

確認不徹底でミスをしました。お詫びします。バージョン管理をしていたはずなのにページの追加時に2ページ複写しして挿入のつもりが、そうではなかった。ちょっと考えられないミスをしてしまいました。大切な原稿を大切に扱えなかったこと、本当に申し訳なかったと反省しております。

8月発行が9月発行に遅れ、諸般の事情も加わってついに今日まで発行が遅れてしまいました。関係各位にお詫びします。様々なところで助けて頂きました。皆様に心から感謝します。

図書館の掲示物やHPにゆずり、定期発行の良さを活かすようにビブリアは109号へ続きます。

We really appreciate your cooperation, Thank you very much.